

山行報告



■立山 奥大日岳(2,605m)

- 日 程：9月15日(金)～18日(月・祝)
- 参加者：L 藤本 SL 村上 高島 田中(重) 田中(美)

● 行動記録：

- (16日) 室堂山荘 9:20 発～浄土山(10:30 着)10:35 発～龍王岳(11:20 着)11:30 発～室堂山荘(13:00 着)
- (17日) 室堂山荘 5:40 発～室堂乗越(7:30 着)～奥大日岳(9:00 着)9:30 発～七福園(11:05 着)～大日小屋(11:30 着)～大日岳(11:40 着)11:50 発～大日小屋(12:00 着)12:20 発～大日平山荘(14:45 着)
- (18日) 大日平山荘 8:05 発～牛首(8:50 着)～称名登山口(10:15 着)

◆◆立山奥大日岳縦走

高島

台風が沖縄、九州とせまる中、富山へと向かいました。

1日目は、浄土山と龍王岳の日帰り登山。

登山中は雨の心配はなく、テトラポットのようなゴロゴロした大きな岩にバランスをとりながらリーダーさんの足跡をみて登りました。急傾斜の岩場を登りあげると、浄土山山頂にとびだし軍人霊碑が祭られている石組みがありました。風の流れが強く、ガスが山を隠したり見晴らしがよくなったりと皆で感動しながらの登山となりました。この日の1番の感動は、龍王岳のてっぺんでのパノラマ風景でした。はるかむこうにあの有名な槍ヶ岳、穂高岳、奥穂高岳が。



2日目は、奥大日岳から大日岳、そして大日平山荘への縦走です。

岩場のゴロゴロ登山は昨日も経験していたので、今日も気をぬかずにリーダーさんに必死について行きました。この日の一番の感動は、奥大日岳山頂で正面に見える劔岳を見ながらお弁当を食べたことです。登山中はガスで見えなかったのに、お弁当の時だけハッキリ、クッキリ。

大日平山荘で泊まっている間に台風は通過し、3日目の朝、出発するまではものすごい風雨にも関わらず山小屋を出ると風雨はおさまり、木道に感謝しながら下山し最後までゴロゴロ岩と戦いながら無事に終わることができました。

リーダーさんはじめ、先輩方のおかげで感動の立山山行ができて、大変嬉しかったです。ありがとうございました。

◆◆圧巻の奥大日岳、難所の牛首

田中(重)

奥大日岳からの展望は薬師岳・浄土山・立山・正面に聳える劔岳の雄姿は圧巻で、色づき始めたナナカマドの先には立山の稜線がスッキリと浮かぶ最高のロケーションだった。

雨の中、大日平の木道から牛首に入ると岩を階段状にくり抜いてあり、鎖場あり、梯子あり、泥濘あり、ゴロゴロ石で足場が悪く三点確保の連続で気の抜けない緊張の難所だった。

◆◆周りは広大なパノラマ

田中(美)

1日目、室堂ターミナルに到着、室堂山荘に荷物を置き、浄土山、龍王岳と進む。山肌にはガスが掛っていても、時々ガスが流れると山の全貌が間近に見え感動する。少し早く室堂山荘入りになりゆっくりする。

2日目、天候の都合で予定より早めの出発、2時間位歩いた所から小雨が降り出し、上雨具を着る。奥大日岳の登山者は少ない。登山道脇で、雷鳥親子4羽と遭遇。近づいても逃げない人なれしているのかな？頂上の岩の上で一周して見る劔岳が目の前に見え素晴らしい。ここでお昼にする。大日岳には大日小屋に荷物を預けて登る。後は大日平山荘へ。

3日目、雨風が少し強く2時間遅らせて大日平山荘を出発。今日は下るだけ、昨日の雨の為か2ヶ所岩崩れがあり、足に力が入る。称名滝登山口に到着。至る谷が滝となっている。称名滝バス停で動画テレビが置かれていて称名滝の幻の滝が写し出されていた。雨も苦にならず楽しい山行ができました。リーダーさん、参加者の皆さんありがとうございました。

◆◆台風を追っかけられた縦走

藤本

自然の猛威は誰にも容赦しない代わりに、騙したりすることも付度することもない。だから逃げの一手しかない。



■高御位山縦走(成井経由で歩く)

- 日 程：9月23日(土・祝)
- 参加者：L 赤木 SL 西口 岡本 黒本 小山 平石 藤原(浩) 舛賀 森下 矢根

- 行動記録：長尾新池 8:30～北山鹿島神社 8:35～縦走路分岐 9:00～小高御位山 9:30～成井登山口 10:00～高御位山 10:55～長尾新池(11:35 着)

◆◆高御位山縦走に参加して

黒本

今回、初めての高御位山縦走(?)でした。今までの縦走は距離が長く、不安があったので、今回は、半日で距離が短いコースだったので参加しました。

北山鹿島神社の横からハイキングコースに入り、亀の甲羅のような岩場～百間岩に負けないような岩場を登り、鉄塔のある分岐で小休憩後、小さな尾根を2～3度上り下りして小高御位山へ。いつもと違う角度から高御位山を眺め、ツクツクボウシのなき声を聞き、心地よい風に当たりながら休憩。

高御位山を半分位登った所で、一旦、成井に下りたのですが道幅が狭く急な下りでした。上ってくる登山者も多く、大きなザックで歩荷トレーニングの高校生数名とすれ違いました。林



を抜けて成井に下りトイレ休憩後、2リットルのペットボトルの水を山頂まで運ぶ歩荷トレーニングをすることにしました。階段の上りが続くルートなのですが、今回1番きつく苦しい所でした。山頂で休憩後、長尾新池駐車場へ下り、3時間と予定より早い行程となりました。

前日が雨だったので湿気があり、歩いていると蒸し暑かったですが、風・虫の音で少しずつ秋を感じることができました。初めての歩荷トレもあり、私には良いトレーニングになりました。少しずつ距離を伸ばしながらトレーニングをして、いつかは、高

御位山縦走にチャレンジしたいです。

これからもお手柔らかにご指導をよろしくお願いいたします。



■八幡平・焼山 ゆっくりリズム山行 紅葉といで湯を楽しむ

- 日 程：9月27日(水)～30日(土)
- 参加者：L 澤田(律) SL 藤原(千) 金島 狩集 澤田(卓) 荘所 舛賀 渡邊

● 行動記録：

- (27日) 姫路6:00 発—東京(9:03 着)9:36 発—盛岡(11:47 着)12:12 発—藤七温泉(14:30 着)
- (28日) 藤七温泉8:50 発—八幡平レストハウス(9:05 着)9:25 発～八幡平山頂(10:10 着)
10:15 発～源太森(11:00 着)11:15 発～見返峠(11:35 着)～八幡平レストハウス(11:55 着)
13:20 発—後生掛温泉(14:00 着)14:30 発～後生掛温泉自然研究路(15:00 着)
～後生掛温泉(15:55 着)
- (29日) 後生掛温泉8:15 発～もうせん峠(10:30 着)～国見台(11:00 着)11:10 発～焼山山頂
(11:40 着)11:50 発～玉川温泉(14:10 着)
- (30日) 玉川温泉9:30 発～自然研究路～玉川温泉 10:00 着(10:30 発)—田沢湖駅(11:50 着)
13:11 発—東京駅(16:01 着)17:03 発—西明石(20:32 着)—姫路(20:41 着)

◆◆また行きたいな！八幡平の山々と温泉

藤原(千)

<1日目> 盛岡駅～登山口～畚岳～藤七温泉

東北新幹線の盛岡駅で下車し、県北バスで八幡平山頂レストハウスへ向かう。左の車窓から岩手県最高峰の岩手山の美しい姿が眺められた。裾野を半周するうち高度が上がり、緑の山肌が所々黄色のじゅうたんと化し、赤色の模様が入った鮮やかな様に歓声を上げるも東の間、小雨となる。レストハウスまで迎えに来てくれた藤七温泉の方に、雨の予想を問うと「これから降りますね！」ときっぱり言われてしまい、畚岳登山を諦めることに。しかしあられ混じりの大雨が降り出したのはかなり遅かったので、登れていたのかもしれない。まあそんなことより、東北最高地「標高1400m」の秘湯にゆっくり浸かり、地物の山菜料理やきりたんぼ鍋、蕎麦、熊肉等々山のバイキング夕食は美味しくて心も体も満たされた。

< 2日目 > 八幡平トレッキング～後生掛温泉・自然研究路

本降りの雨の中レストハウスまで送ってもらい、ザックを預け、約3時間のコースを歩く。

紅葉した鏡沼やかわいいメガネ沼(小さな沼が隣り合わせ)、アオモリトドマツの木々やナカマドの真っ赤な実など見どころは多い。山頂を通り草紅葉の湿原に出ると、木道や池塘があつて、尾瀬ヶ原とよく似た風景である。眺望がいいと言われる源太森の山頂からは、残念ながら何も見えず。

レストハウスに戻り昼食後、13:20発のバスで後生掛温泉へ。秋田県焼山東麓の「馬で来て足駄で帰る後生掛」と言われる伝統のある一軒宿。一息ついてから近くの自然研究路を散策し始めると、ようやく雨が止んだ。山の斜面が崩れ陥没して、地下からもうもうと沸き上がる大噴煙の様子は、地獄さながら。あちこちで火山現象が観察でき自然の力に驚く。中でも泥火山は高温の泥を沸々噴き上げ、周囲に堆積して山のようになっており、興味深かった。お風呂は天井の高い木造の山小屋風で、楽しみにしていた名物の箱蒸し風呂に入ってみた。木箱から顔を出すので、体だけ蒸され熱くなりすぎず気持ちがいい。あと泥風呂や火山風呂、露天風呂等7つの温泉でほっこりした。



< 3日目 > 後生掛温泉～焼山(又は大沼)～玉川温泉

待ちに待った青空の下、大沼コースの渡邊さんと澤田(卓)さんに見送られ、約8km先の玉川温泉を目指す。色づいた広葉樹のトンネルを抜け、広々したブナの森をルンルン気分で通過。

足元にはマイヅルソウの透き通った赤い実がかわいい。国見台あたりから急に雲行きが怪しくなり、雨具を付ける。晴れの1日と思いきや裏切られ、毛せん峠では風が強く横殴りの雨になった。一瞬ガスが消えると素晴らしい紅葉が眺められた。避難小屋手前から硫黄臭が漂い、火口が近くなったことがわかる。「有毒ガス注意」の立て看板が目につき、先へ急ぐ。火山特有の荒涼とした風景の中を歩いているのであろうが、何も見えず残念だ。溶岩が門のように突っ立つ危なっかしい間を進む。名残峠から焼山へは急坂の尾根で、強風が吹き抜け飛ばされないかと心配した。その後は笹の枝や葉で覆われた急な下りで歩きにくく、その上風雨も強く難儀だった。それが終われば石ゴロゴロ、滑りやすい木道、ぬかるみの繰り返し。熊の心配もあって緊張の連続、長かった。やがて道が石段に変わり、玉川温泉の噴煙が見え出すと、ほっとして目がうるんだ。登山口につき、6時間がけの完走を喜び合う。渡邊さん達はすでに宿へついていた。

焼山の麓にある玉川温泉は、1ヶ所から毎分9千リットルという日本一の湧出量と、強酸性(PH1.2)の泉質を誇る。木造で落ち着きのある大浴場には、源泉50%と100%の浴槽がそれぞれあって、まず50%で体を慣らしてから100%に入るよう注意書きがある。50%で試すと少しピリピリした。恐々100%に入ってみると、湯が少しぬるいぐらいで、他に違いはないように思えた。



< 4 日 目 > 玉川温泉・自然研究路～田沢湖駅～帰宅
朝目覚めると温泉効果なのか疲労は解消していて、
肌は少しツルツル！？嬉しい限り。荷物をまとめた後、
雨の中を一周約 1 km の自然研究路へ。源泉が吹き出
している所や 9 8℃ の湯の川、噴気孔、北投石(特別
天然記念物)などを見て回る。宿の前からバスに乗り
込み、1 時間 2 0 分で田沢湖駅へつき、無事終了した。

雨で眺望には恵まれなかったが、東北ならではの自
然を体感し、特色のある 3 つの温泉宿を存分に楽しめた 4 日間だった。見どころを上手く組み
合わせ計画して下さったリーダーさん、そして同行の皆さん、ありがとうございました。



■燧ヶ岳～至仏山と尾瀬の草紅葉

- 日 程：9 月 2 8 日(木)～1 0 月 2 日(月)
- 参 加 者：L 三木(悦) SL 待場 上田 苦瓜 村上 和田

● 行 動 記 録：

(2 8 日) 加古川 22:00 発

(2 9 日) 新宿(6 : 45 着)7:15 発—大清水(11:05 着)11:35 発～一ノ瀬(12:40 着)13:00 発～三平峠
(14:05 着)14:15 発～三平下(14:35 着)14:45 発～長蔵小屋(14:55 着)

(3 0 日) 長蔵小屋 5:40 発～浅湖湿原(6:00 着)～長英新道 2 合目(7:00 着)7:10 発～ミノブチ岳
(8:30 着)8:40 発～俎崑(9:15 着)9:35 発～柴安崑(10:00 着)10:25 発～分岐(13:26 着)
13:30 発～見晴十字路(13:45 着)14:10 発～龍宮小屋(14:40 着)

(1 日) 龍宮小屋 5:15 発～牛首分岐(5:58 着)～山ノ鼻(6:35 着)6:50 発～至仏山(10:15 着)10:40
発～小至仏山(11:25 着)11:30 発～展望所(11:50 着)12:00 発～オヤマ沢田代(12:08 着)
～鳩待峠(13:10 着)13:20 発—戸倉(13:50 着・入浴)15:30 発—新宿(20:15 着・夕食)
22 : 30 発

(2 日) 加古川(8 : 05 着)

◆◆尾瀬・燧ヶ岳に登って

数年前の「尾瀬の水芭蕉」山行の時に、至仏山・燧ヶ岳を眺めていて何時か登りたいと思っていた山なので嬉しくて…。夜行バスで出発し新宿から尾瀬号バスでお昼頃に到着。真っ青な秋晴れの中、熊よけの鈴を付けてスタートしました。

しかし、「音を出せば熊は寄って来ない」は、最近効果がないと聞いていたので心配をしながら歩きました。長蔵小屋の手前、三平下の広場から奥には燧ヶ岳のどっしりとした姿ともう 1 つの目的である尾瀬沼での綺麗な草紅葉と燧ヶ岳との取り合わせが 1 枚

待場



の絵のようでした。

澄みきった青空と憧れの燧ヶ岳は写真を撮らずにはいられないほど素晴らしい眺めでした。長蔵小屋ではとても寒くてストーブにほっとし、お風呂に入れたことが何よりでした。部屋ではコタツで暖をとり、寝るのも温かくぐっすりと眠れたように思います。

いよいよ今日は、燧ヶ岳。快晴です。嬉しい やったー！

浅湖湿原では「草紅葉」をはじめ、木々の紅葉も美しく染まっていて満足感でいっぱいです。

木の根元には小さな可愛い真っ赤な実をつけた「ごぜんたちばな」や「オクトリカブト」などを目にしながらガレ場を登り、クマ笹と榛松帯を抜け出るとそこは三角点の在る^{まないたぐら} 嶺につき、少し行くと燧ヶ岳主峰(柴安嶺)。巨岩がおおう山頂からは大パノラマでした。眼下に尾瀬沼、その先には日光連山など360度の素晴らしい展望を満喫し幸せ気分を味わいました。下りでは道がぬかるみ、歩きにくい所もあり悪戦苦闘しましたが、木道に出るとほっとしました。見晴(十字路)で靴の泥を落とし皆で食べた「ミルク金時」のかき氷がとても美味しかったです。龍宮小屋にも予定通りにつき、ここもお風呂が有り疲れと汗を流すことができました。東北の最高峰に登り、皆いい笑顔です。

乾杯の一口が美味しかったこと。

明日は至仏山です。楽しみにしています。最高の天気恵まれたこと、本当に「楽しい山行」ができたこと、とても嬉しく思っております。皆さん有難うございました。

◆◆龍宮小屋から山ノ鼻、至仏山へ

苦瓜

10月1日5時20分、予定より早く準備が出来たので、朝もやの中ストレッチをして小屋



を出発した。尾瀬ヶ原の木道は霜が降り滑らないように歩く。アマチュアカメラマンを横目にひたすら歩く歩く。朝日に照らされた至仏山が見える頃、振り向くと燧ヶ岳、尾瀬ヶ原を霧が流れていく様は幻想的で言葉がなかった。

山ノ鼻でトイレ休憩を終え至仏山登山口へ、樹木が生い茂り登山道は石混りのゴロゴロした道。衣服調整をしながら時々振り返り、紺碧の空と草紅葉の尾瀬ヶ原を見下ろす。その美しさに足をとめ疲れを癒す。苦手な岩場をあえぎながら登るうち高天ヶ原につく。少し勾配もゆる

くなった木製の階段を上ると至仏山の山頂。

山頂からの展望は絶景。今度はゴツゴツした岩場を小至仏山に向け下る。高山植物は期待できないが山肌はハイマツと岩石とで見事な日本庭園を思わせる景色。つるつるした石ころに足をとられない様に小至仏山につく。ベンチ付のテラスで小休憩。次第に樹林帯に入って小1時間ほど下って鳩待峠につく。ジャンボタクシーで戸倉へ、風呂にゆっくりと入り新宿に向かう。「讃岐おごっと」で反省会を兼ねて夕食をする。

その後夜行バスに乗り込む。

2日朝、目覚めると雨だった、高速道路の諸事情で45分程遅れて加古川につく。久しぶりの山行で談話室などでリーダーさんの苦労や色々な山行で気付いた事を教えてもらったり、反省することが多かった。本当にありがとうございました。



■九州の山・祖母山

- 日 程：9月29日(金・夜)～10月2日(月・朝)
- 参加者：L砂川(延) SL佐々木 大谷 垣内 河合 島谷 高島 矢根

● 行動記録：

- (29日) 山陽電車高砂駅 17:00 発 - JR加古川駅 17:20 発 - 六甲アイランド港(18:25 着) 19:50 発
- (30日) 大分港(7:20 着) 7:50 発 - 尾平登山口(10:00 着) 11:00 発 - 2合目(12:15 着・昼食) 12:30 発 - 宮原(14:15 着) 14:25 発 - 9合目小屋(15:55 着)
- (1日) 9合目小屋(5:45 発) - 祖母山(6:10 着) 6:30 発 - 天狗の別れ(8:40 着) - 障子岳(9:30 着) 9:40 発 - 古祖母山(10:45 着) 10:50 発 - 尾平越トンネル上(12:15 着) 12:20 発 - 尾平越トンネル登山口(12:50 着) 13:35 発 - 尾平(13:55 着) - 民宿ふもと(14:10 着・昼食) 14:40 発 道の駅原尻の滝(15:30 着) 16:15 発 - 大分港(17:30 着) 19:15 発
- (2日) 六甲アイランド港(6:35 着)

◆◆絶景かな！祖母山

島谷

「傾山・・・山頂からの大展望・・・」としてメンバーが集まり、計画書もいただいて地図に要所を書き込み準備万端の水曜日。「台風で傾山登山道が通行止め。祖母山へ行先変更」の連絡は出発の2日前のことでした。翌日には新しい計画書を受信したものの、さらに次の日、フェリー乗船出発日の昼には「下山ルート変更」「この山小屋の注意点」等のメールがあり、リーダーは間際まで安全山行のために調査をしてくださいました。

(山・1日目)晴天です。駐車場からグルッと楕円を描くように尾根が見えています。「祖母山は？天狗岩は？」「あんな高いところまで行くん？」と不安と期待で出発しました。登山道は木の根が大きく張っていて歩きにくく、横には背の高い笹が茂り、頭上の枝に何度もぶつかりそうになりながら急登を進みました。稜線にでてからも森林限界の高度ではないので木々が高く、枝の間から景色を垣間見ながら足元に注意を注ぎます。馬ノ背からは、深い谷の向こうに緑の尾根と青空がきれいに見え、間もなく祖母山9合目小屋に到着しました。

(小屋にて)私の今回の山行テーマは、初めての山ごはんとシュラフデビュー。小屋についたらまず水を確保することを覚えました。料理道具と食材は万全の事前準備がなされており、内心「すごいっ」と連発していました。出発前、自分は荷物の準備だけで精一杯でしたが、担当の方々のザックからは鍋・ガス・下ごしらえ済の食材が出るわ出るわ。シェフにより魔法のようなアヒージョ(オリーブオイルのお料理)・トマトスープ・エビご飯ができあがり、美味しい山ごはんをいただき、ガスカートリッジの扱いも覚えてお得感満載です。この日のために用意したシュラフは快適で、うれしい小屋泊となりました。空には月と星がかがやいています。

(山・2日目)やっぱり美味しい朝食をいただき、片付けもすばやく終え気持ちのよい出発です。



20分程で祖母山頂につき、きれいな朝焼けと晴れわたる360度の眺望はすばらしかったです。由布岳が見えます。由布岳の西峰と東峰がはっきりとわかり、K先輩と「3月山行の由布岳、えらかったあ」「あそこに登った」と共に眺めました。九重山、阿蘇山は、あたりの小さい山々を従えてどっかり座っている感じです。高度が同じくらいの祖母山からは、大きな両山を見下ろすようにも見えました。

山頂から天狗岩へのルートは梯子やロープをつかい、また要所では足を下ろしひっかける箇所を指示を得ながら緊張して下りました。1時間も歩くと祖母山がきれいに見渡せるようになり、遠くからでも祖母山絶壁にへばりついている梯子が確認でき、皆で「あんなところを下りてきた！」と驚きました。下山は天狗岩からさらに南の古祖母山経由のルートです。危険箇所を8人で歩くと時間が余分にかかることがよくわかりました。聞こえてくるのは「頭注意」「この石あかん」「滑るよ」「右、木」等で、無言で山を歩くことに専念しました。雨天であればとても下れないであろう程の急な山道です。そんな中で、鹿の鳴き声やわずかなお花、そしてリーダーの「休憩」の声は心に点滴がしみ入るようでした。

(下山口)ここから駐車場までは、道路・林道を通りまだ1時間近い歩きになります。正午をかなり過ぎ疲労しきったメンバーのため(出発から7時間経過)、リーダーは下山後の帰路につこうとされている他の登山者に「運転者2名を駐車場まで送ってほしい」と交渉し快諾をいただきました。「山をする者同士」で親切を受け、我がメンバーも他の登山者へこういった親切をしたことがあると、素敵な話を聞きました。

山変更という大きな壁にも、落ち着いて考え、自分たちに出来る安全山行を提案し決断する。臨機応変に、かつ皆と一緒に行動する。すばらしい山の景色と経験をいただきました。



■お月見ビバーク (in高御位山)

お茶を頂き、団子を食べ、少し飲み、ひたすら夜が明けるのを待つ

- 日 程：10月4日(水)～5日(木)
- 参加者：L佐々木 SL上田 金島 狩集

● 行動記録：

(4日) 鹿島神社大鳥居 16:05 発～桶居山分岐(16:45 着)～ビバーク地点(17:00 着)

(5日) ビバーク地点 7:15 発～桶居山分岐(7:30 着)～鹿島神社大鳥居(8:15 着)

◆◆お月見ビバーク

佐々木

昨年のお月見ビバークは、天候の関係で中止となった。今年は天気予報では晴れ。但し上空への寒気の流入に伴い気温が下るとの事。参加者が4名となったのでテント泊とする。全員が高齢者？なのでシュラフとマットの使用を決定。(どんどんビバークから離れていく)鹿島神社大鳥居に集合した面々は、何故か大きく重たそうなザックを背負っている。

いざ出発という段になって、衆議一決、楽な馬の背ルートに変更とする。



夕日を浴びて馬の背の上部の急な岩場を上り詰め分岐より桶居山へのルートに入る。前回のビバーク地点を通り過ぎ、道が下りになる手前に、テント一張りがやっと(と言うかピッタリというか)のスペースを見つけテントを設営する。張り綱を木の根元に結束し入口の前にブルーシートを広げテラス付きのテントとする。テラスで湯を沸かし、お月見団子を食べ、見事な月を眺めながらお薄を頂く。秋の夕べの至福のひと時である。計画通りなのは、ここまで。ここからは、ビバークとは無縁の世界が始まった。

豊富な食糧が出現し、焼きアナゴをたらふく頂き、現れたカセットラジオでカセットテープの懐かしい曲を聴きながら、酒を飲み満腹で月を愛でる。次回があるなら、“ビバーク”の文字を外さねばと思う。月が明るく星の数は少ないが、航空路の真下のように、次から次へと航空機の点滅する明かりが頭上を通過する。すれ違い、交差と多い時には視認範囲に6機程が夜空を飛ぶ。あまりにも数が多いのに驚く。

月が頭上に来るのを待たずに寝袋の中に。風がやんでテントに写る松の影も揺れない静かな夜となった。熟睡。

5日の朝は、雲があり日の出は見られなかったが、おかげでゆっくりと眠る。

コーヒーを入れビスケット2枚の朝食の予定が、パンまで現れる。テントをたたみ、馬の背を下り、無事出発点に戻る。こんなつもりじゃなかったが、まことに楽しいお月見でした。

重いザックを背負って参加された皆様、「ごちそうさまでした。荷の重さに納得しました」。



■六甲山 石切り道～ガーデンテラス～宝塚

- 日 程：10月9日(月・祝)
- 参加者：La 赤木 SLa 瀧原 木村 乙坂 土井 本田 山下(雅)
Lb 藤本 SLb 尾越 田中(重) 中村 西口 橋本(健) 平石 森下

- 行動記録：JR住吉駅(8:40着)9:05発ーエクセル東バス停(9:20着)～石切道登山口(9:35着)9:40発～ガーデンテラス(11:45着)12:15発～一軒茶屋(13:00着)13:15発～船坂峠(14:35着)～大谷乗越(15:20着)～塩尾寺(16:30着)16:40発～宝塚駅(17:10着)

◆◆誤算2つの六甲山山行

西口

10月に入り各町内からは祭り囃子も聞こえ、又この頃になると季節も前に移行して涼しくなってくる頃である。山行にはベストシーズンだ。



【フサフジウツギ】

久しぶりに六甲山山行参加した。私の勘違いも有ったが、2つの誤算があった。1つ目は、季節が少し後戻りして、気温がかなり高かった事だ。

エクセル東のバス停で降車。登山口でストレッチ・メンバーの班編成・任務の確認をして、いよいよ元気に石切道を登山開始。この時、A班のサブリーダーから、「赤木さんゆっくり歩いて下さい。」

と、言う声が聞こえていたが、A班の歩くスピードはかなり早かった。ガーデンテラスに上がるまで1度A班のメンバーを確認出来たが、後は全く別行動になった。

今回の六甲山山行は、長時間・長距離を歩く山行なので個人装備は、雨具・シュリンゲセット等必要最低限にした。ザックは何時もより軽めだったのに暑くて暑くて汗が吹きだした。B班のリーダーは、それらを加味して山野草にカメラを向けたりしてゆっくりしたペースで歩を進めて頂いたのが、思いの外楽な山行だった。

2つ目の誤算は、計画書に「ガーデンテラスで昼食後宝塚へ」と記して有った為、てっきり前回と同じようにジギスカンの昼食だと早合点をしたことだ。前々日の土曜トレで赤木さんとご一緒だった。「六甲山山行でジギスカンを食べるのですよね。」と、尋ねると「食べないよ。弁当持参してよ」って。残念！！

私達B班がガーデンテラスに到着した時は、この日は3連休の最終日なのでかなりの観光客で賑わっていた。ジギスカンを焼くいい匂いも漂っていて、“美味しそうだなあ、やっぱり食べたかったなあ”って思った。

午後から、お弁当を食べたのでザックはもっと軽くなったが、その分お腹に収まったので重さは同じだと感じながら気合を入れて宝塚の駅を目指した。昼食後A班とB班は一緒に出発したがすぐに離されたが、一軒茶屋で再び合流して無事に集合写真を撮る事が出来た。



後は最後の難関、塩尾寺から宝塚の駅までの長くて硬いコンクリート道の下りが待っている。前々日、雨の土曜トレ・前日の清掃登山。ウォーミングアップを十分した為なのか、思ったほどではなくほぼ予定通りのタイム(予定では17:00着)で下山出来た。良かった。終着の宝塚で、〇〇店に立ち寄り前回と同じようにラーメンと餃子でお疲れさん会をした。宝塚に下山した時はこれからも定番になりそうだ。これも又楽しからずや！！皆様、本当にお疲れ様でした。今回も五体満足で帰宅できました。